

平成27年（2015年）9月14日外部評価実施

庄内地域包括支援センター（南部圏域）

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

総人口：44,915
高齢者人口：14,750
高齢者率：32.8%

南部圏域は、市内7圏域の中で最も高齢者率が高く、高齢者独居世帯の割合や生活保護受給者も多い地域です。木造アパートや住宅が密集する地域もあり、単身者向けの古い住宅が多く存在します。庄内地域包括支援センターには、経済的困窮、認知症、精神疾患、虐待といった問題が複合的に絡んだ相談が多く寄せられます。

センターの取組方針や特徴

様々な要素が絡み合った複雑な相談に対応するため、職員の資質向上に力を入れて「現場に足を運ぶ」ことを行動理念に掲げ、職員自身の目で確認してアセスメントを行い対応しています。

虐待、困難事例、未返信者訪問については、必ず2人の職員で対応しています。

在宅医療連携の取り組みを実施しています。

介護支援専門員の資質向上のための勉強会とネットワーク作りに取り組んでいます。

センター職員一人ひとりが専門的知識を習得し資質向上を図る取組みを行っています。

総評

【特に評価の高い点】

● 職員研修について

管理者は職員との面談を通して本人の希望や、求められる専門性に必要な研修を実施しています。

● 地域との連携について

なんでも相談に頻繁に出向き、顔が見える関係づくりをしています。

● 介護と医療の連携について

虹ねっとのモデル事業「ほっとライン庄内」で在宅医療連携推進の取り組みとネットワークづくりをしています。

● 地域アセスメントについて

地区ファイルの作成に当たっては、地区担当者を定めてアセスメントを実施し、地区ファイルには地域の概要、今年度の計画、地区のキーパーソンなどがすぐにわかるようにしています。

● 介護支援専門員の支援

“庄内ケアマネット”（介護支援専門員勉強会）において介護支援専門員支援の強化を図っています。

【特に改善を求められる点】

● 職員研修について

外部研修の復命書等で回覧した職員のサインなどが確認できませんでした。復命書にサイン欄を設けるなどの工夫をして、伝達研修や情報の共有をより確実なものにしていくことが求められます。

● 高齢者虐待防止の普及啓発について

地域住民に対して高齢者虐待に関する研修などを開催し普及啓発することが求められます。